



実績概要報告書

新眼科医療機器Smart Eye Cameraを用いた 包摂的な眼科診断モデルの実証実験

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

株式会社OUI (OUI Inc.)

背景・目的

つくば市をはじめ、日本の眼科医療に共通の課題として、患者さんが「症状が発症し、本当に悪くなるまで眼科受診に行かない」ということが挙げられる。私たちが開発したスマホアタッチメント型医療機器Smart Eye Cameraを使って、その課題を解決したい。そのために、つくば市民の方々にSmart Eye Cameraを使った眼科のプライマリスクリーニングを実施し、従来眼科未受診であった患者の早期眼科受診による早期予防・治療で医療費削減を目指すとともに、つくば市民の眼の健康に対する意識を高めることを目的とする。



実施内容

宝陽台自治会にご協力いただき、公民館に集まった住民の方に対して、Smart Eye Cameraでスクリーニングを行った。協力医療機関の支援の下、撮影は視能訓練士が行い、撮影したデータを遠隔から眼科医が観察、観察結果を住民の方に伝達。（あくまでスクリーニングの位置づけで、診断を保証するものではないという位置づけのもの）

実施期間

2023年2月7日～3月19日

場所

宝陽台公民館

市の支援内容

- ・ 実証場所の選定・調整・提供
- ・ 実証協力者の紹介・調整
- ・ 実証後のフィードバック



実験結果

2/7と2/24の2日間にわたり、公民館に集まった住民の方計18名に対してSmart Eye Cameraでスクリーニングを実施した。参加者の平均年齢が75歳以上であり、何らかの形で眼科と接点を持っている方が多かったものの、定期的に眼科受診をしていない参加者で定期的な眼科受診が推奨された事例もあり、住民の方々の眼の健康に対する意識啓発には一定の成果があった。



社会実装に向けた課題等

スクリーニングの有効性検証やオペレーション改善の面で、実装を通じてブラッシュアップすることができた部分が大きかった。今回の実証で、以前より眼科のスクリーニングをより身近に感じてもらったと思うので、今後も継続して実証を続け、定期的な眼科受診による眼科疾患の早期発見・早期治療につなげていきたい。

市からのコメント（担当部署）

革新的な技術を活用した機器であり、今後重要となる遠隔医療にも資することから、広く普及することを期待します。